

コ	口腔感染症学・口腔感染症学実習 (Oral Infectious Diseases Lecture & Lab class)		
ー	学年・期・単位	第3学年・前期・2単位	科目担当責任者
ス	オフィスアワー	毎週水曜日16:30～18:00 (第2研究棟6階感染制御学講座)	浜田 信城 (感染制御学講座 微生物学分野・教授)
		メールアドレス	saikin@kdcnet.ac.jp
一般目標 (GIO)	歯科領域の感染症について発症と進展のメカニズムを理解するとともに臨床における予防、診断、治療に必要な知識を習得する。		

講義ユニット	一般目標 (GIO)
1. 口腔環境と微生物	口腔環境と常在微生物の関係について理解する。
2. 口腔感染症	齲蝕、歯周病および歯周組織における感染症の原因菌や発症のメカニズムについて理解する。
3. 顎顔面領域の感染症	顎顔面領域に関連する主な感染症を理解する。
4. 歯科臨床と感染予防	歯科臨床について留意すべき感染症の種類とその予防法について理解する。
5. 試験評価	当該ユニットの内容について把握する。

教科書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
A 口腔微生物学	小川知彦 他編著	学建書院

参考書〈講義〉		
書名	著者名等	発行所
Oral Microbiology and Immunology	Lamont et al. 編	American Society for Microbiology
歯学微生物学5版	口腔細菌談話会 編	医歯薬出版
口腔微生物学・免疫学	浜田茂幸 編	医歯薬出版
戸田新細菌学	吉田真一、柳 雄介、吉開泰信 編	南山堂
最新口腔微生物学	奥田克爾 著	一世出版
微生物学実習提要	東京大学医科学研究所学友会 編	丸善

評価法 (EV)
中間試験 (客観・記述; 50%) および本試験 (客観・記述; 50%) による講義評価 (100%) と、実習レポート (50%) ならびに実習試験 (客観・記述; 50%) による実習評価 (100%) を行い、それぞれについて60%以上で合格した者に対して単位認定を行う。

授業計画 (講義)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1	4/6	口腔環境と微生物	口腔環境と口腔細菌の生育との関係について説明できる。	A P294～300に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-⑤ 必6-D-a, c 総(Ⅳ)-5-A～C
2	4/13		口腔フローラの形成に関与する因子について説明できる。	A P301～303に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-⑤ 必6-D-a, c 総(Ⅳ)-5-A～C
3	4/20		1. 口腔フローラ、プラーク、歯石の微生物学的特徴と機能を説明できる。 2. 口腔細菌の付着・凝集に関する相互関係、歯石の微生物学的特徴と機能を説明できる。 3. 口臭と口腔細菌の関係について説明できる。	A P304～315に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-⑤ 必6-D-a, c 総(Ⅳ)-5-A～C 各Ⅰ-4-A
4	4/27		口腔における感染防御機構について説明できる。	A P342～348に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-2-2)-④ 必6-D-c 総(Ⅲ)-3-A～C
5	5/11	口腔感染症	齲蝕の定義・病因・歴史・硬組織の種類による齲蝕原性菌の違いについて説明できる。	A P349～352に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-① 必6-D-b, d 総(Ⅳ)-5-B, C 総(Ⅵ)-11-B 各Ⅰ-1-A
6	5/18		齲蝕病原細菌の性状について説明できる。	A P316～324, 352～355に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-⑤ 総(Ⅳ)-5-B, C 総(Ⅵ)-11-B 各Ⅰ-1-A
7	5/25		齲蝕予防、齲蝕続発性疾患について説明できる。	A P355～362に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	C-3-2)-① F-3-2)-③ 必14-B-a 総(Ⅳ)-5-B, C 総(Ⅵ)-11-B 各Ⅰ-1-A
8	6/1	評価試験	授業1回～7回の内容について説明できる。	中間試験を実施する。	微生物学分野 教室員全員	
9	6/8	口腔感染症	歯周炎の病型と病理機序について説明できる。	A P363～366に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-④ 必6-D-a, c 必14-B-b 総(Ⅳ)-5-B, C 総(Ⅵ)-11-B 各Ⅰ-2-A, B
10	6/15		歯周病原細菌の病原因子および性状について説明できる。	A P366～368, 324～333に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-④ F-3-2)-⑤ 必6-D-a, c 必14-B-b 総(Ⅳ)-5-B, C 総(Ⅵ)-11-B 各Ⅰ-2-A, B
11	6/22		歯周病における宿主の免疫反応および歯周病の病因検査について説明できる。	A P368～376に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-3-2)-④ 必11-C-d, e 総(Ⅲ)-3-A～C 総(Ⅵ)-6-B, C
12	6/29	顎顔面領域の感染症	口腔内の化膿性炎と特異性炎について説明できる。	A P376～381に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-2-4)-(2)-②③⑤⑧ 必9-C-d, f, d 必-14-B-h 総(Ⅵ)-5-F 総(Ⅵ)-11-C 各Ⅳ-(Ⅰ)-3-H
13	7/6		口腔粘膜に発現するウイルス感染や病巣感染について説明できる。	A P381～386に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-2-4)-(2)-①②⑥⑨⑩ F-2-4)-(5)-③ 必9-C-d, e 総(Ⅵ)-11-C 各Ⅳ-(Ⅰ)-6-A～E, R
14	7/13		口腔感染症に起因する全身疾患について説明できる。	プリントに沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	F-1-1)-② 各Ⅲ-(Ⅰ)-2-A, B 各Ⅲ-(Ⅲ)-2-C, H 各Ⅲ-(Ⅲ)-3-B 各Ⅳ-(Ⅰ)-3-G
15	7/20	染予防 歯科臨床と感	歯科臨床と感染予防と留意すべき疾患について説明できる。	A P394～396に沿って板書およびパワーポイントにより解説する。	浜田信城	D-3-1)-③ F-1-4)-⑥ F-2-4)-(7)-②⑩ 必4-C-a, b 必15-H-a, b 総(Ⅱ)-11-A～C 各Ⅳ-(Ⅳ)-2-A

実習ユニット	一般目標 (GIO)
1. 細菌取り扱いの基本	微生物を取り扱うための基本的手技を習得する。
2. 免疫実習	抗原抗体反応の原理を理解し、免疫検査の手技を習得する。
3. 細菌の分離・同定	細菌の種を決定する為に行う検査の内容を理解し、その手技を習得する。
4. 口腔細菌の性状観察	口腔常在菌の種類とその性状ならびに口腔感染症との関連性について理解する。

教科書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
B 口腔細菌学・免疫学 実習の手引き	浜田信城 編著	砂書房

参考書〈実習〉		
書名	著者名等	発行所
Oral Microbiology and Immunology	Lamont et al. 編	American Society for Microbiology
歯学微生物学5版	口腔細菌談話会 編	医歯薬出版
口腔微生物学・免疫学	浜田茂幸 編	医歯薬出版
戸田新細菌学	吉田真一、柳 雄介、吉開泰信 編	南山堂
最新口腔微生物学	奥田克爾 著	一世出版
微生物学実習提要	東京大学医科学研究所学友会 編	丸善

評価法 (EV)
中間試験 (客観・記述; 50%) および本試験 (客観・記述; 50%) による講義評価 (100%) と、実習レポート (50%) ならびに実習試験 (客観・記述; 50%) による実習評価 (100%) を行い、それぞれについて60%以上で合格した者に対して単位認定を行う。

授業計画 (実習)						
回	日付	ユニット	行動目標 (SBOs)	学習方略 (LS)	授業担当者	コアカリ/国試出題基準
1 2	4/6	細菌 取り 扱い の 基本	細菌の形態観察をする手技を実践できる。	B P7~25に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①  必11-C-e
3 4	4/13		滅菌、消毒法を理解し、応用することができる。	B P30~37に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-③  必4-C-b
5 6	4/20		細菌の増殖観察ができる。	B P38~47に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①  必11-C-e 総IX -3-F
7 8	4/27	免疫 実習	1.凝集反応検査ができる。 2.沈降反応検査ができる。 3.補体結合反応検査ができる。 4.標識抗体法を利用して検査ができる。	B P93~99に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-2)-②③  必11-C-d
9 10	5/11	細菌 の 分離 ・ 同定	細菌の分離培養ができる。	B P48~55に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①  必11-C-e 総IX -3-F
11 12	5/18		細菌の形態観察および培地の作製ができる。	B P26~29、48~55に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①  必11-C-e 総IX -3-F
13 14	5/25		細菌の性状検査ができる。	B P48~55に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①  必11-C-e 総IX -3-F
15 16	6/1		細菌の鑑別、同定ができる。	B P48~55に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①  必11-C-e 総IX -3-F
17 18	6/8		薬剤感受性試験ができる。	B P56~59に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-④  総IX -3-F 総IX -9-M
19 20	6/15	口腔 細菌 の 性状 観 察	口腔細菌の観察ができる。	B P60~62に沿って、手技を習得する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-② F -3-2)-⑤  総V -5-B、C
21 22	6/22		歯垢細菌の分離培養ができる。	B P63~83に沿って、手技を実践する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①② F -3-2)-⑤  総V -5-B、C
23 24	6/29		歯垢細菌の集落、形態の観察ができる。	B P63~83に沿って、手技を実践する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①② F -3-2)-⑤  総V -5-B、C
25 26	7/6		歯垢細菌の性状検査ができる。	B P63~83に沿って、手技を実践する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①②  総V -5-B、C
27 28	7/13		歯垢細菌の菌種の同定ができる。	B P63~83に沿って、手技を実践する様に指導する。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①② F -3-2)-⑤  総V -5-B、C
29 30	7/20		歯垢を材料としてPCR法による菌種の同定ができる。	B P84~88に沿って、手技を習得する様に指導する。実習試験を行わせる。	微生物学分野 教室員全員	D -3-1)-①② F -3-2)-⑤  総IX -3-F